

■北海道大が4連勝、室蘭工業大は1部で10年ぶり勝利。第6節

第49回北海道学生選手権は第6節の10月1日、札幌市円山競技場で1部の2試合を行い、室蘭工業大が27-0で北星学園大に、北海道大が14-6で釧路公立大に勝利した。室蘭工業大が1部で勝ったのは2013年以来で10年ぶり。北海道大は4連勝。室蘭工業大は1勝3敗、釧路公立大と北星学園大は3敗となった。第7節は10月8日、札幌市円山競技場で1部の北海学園大-帯広畜産大、2部の東京農業大-北海道科学大の2試合を行う。

前節まで3連敗の室蘭工業大と2連敗（棄権を含む）の北星学園大の対戦は、攻撃力に勝る室蘭工業大が4TDを奪い快勝した。室蘭工業大は第1Q3分、RB北村朋也（4年、釧路北陽高）が19ヤードTDランで先制。同7分にはRB冨樫司（3年、札幌清田高）の4ヤードランで加点した。第2Q4分には、RB冨樫が65ヤードのパントリターンTDを決め、第3QにRB北村が4ヤードランで駄目を押した。北星学園大は選手11人で臨み、第3QにQB中手龍一（4年、札幌静修高）がWR河瀬隼人（2年、札幌稲雲高）へ18ヤードのパスを決めて第1ダウンを更新するのが精いっぱいだった。なお試合は、第3Qの豪雨でグラウンドコンディションが一時的に不良になり、競技場の要請で中断。両チームの同意により同Qで試合終了となった。



室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「北星大は選手が少ないので、ゴリゴリ押して体力勝負をしようと選手に話した。ラインも頑張り、取るべき選手が点を取った」と10年ぶりの1部勝利を喜んだ。2TDのRB冨樫は「最後は8人になった相手守備に対してファumblesするなど浮き足だったプレーをした。勝っても素直に喜べない」と反省しながら「釧路公立大にも絶対勝ちたい」と最終戦へ闘志を燃やした。一方、北星学園大のOL/DL

佐々木魁主将（4年、室蘭栄高）は「（けが人が出て）8人でやってもターンオーバーを奪えた。守備は戦えた。あと2試合、最後まで走り切りたい」と力を込めた。

3連勝中の北海道大と2連敗中の釧路公立大の一戦は、北海道大がQB神田智史（2年、東京・麻布高）の2TDパスで接戦をものにした。北海道大は第2Q1分、QB神田からWR日高耀（4年、福岡・北筑高）へ15ヤードTDパスが決まり先制。第3Q1分にはQB神田から自陣でパスを受けたWR宮崎大地（4年、兵庫・星陵高）が好走を見せてそのまま相手エンドゾーンへ飛び込む84ヤードTDキャッチで加点した。釧路公立大は第3Q8分、RB牧野幹大（4年、札幌藻岩高）の9ヤードTDランで追い上げ、第4Qにも敵陣14ヤードまで攻め込んだが、QB山口響生（3年、札幌清田高）が北海道大LB鯨井雅生（4年、埼玉・川越東高）に痛恨のインターセプトを喫した。



北海道大の降梁祐介HCは「守備が頑張った。6失点は許容範囲。攻撃はもっとパスの精度を上げたい。4本挑んだFGが決まればもっと点が取れた」と、収穫と課題を挙げた。Kも兼ねるWR日高は「先制TDはQBがしっかりと空いているところに投げてくれた」と喜びながら「FGは4本とも右に外した。力が入りすぎた」と反省。勝利を決定づけるインターセプトのLB鯨井は「前半にやられたパスだった。決められると同点となる場面でインターセプトできて良かった」と3試合連続のビッグプレーに胸を張った。一方、釧路公立大の伊藤祐介HCは「3連敗だが、初戦からすべて1TD差。今日も選手たちは求めるプレーを100%していた。攻守兼任や長距離移動などのハンディを考えるとフットボールに取り組む重みが違う」と選手をたたえ、「残り2試合は『向こう10年、釧路には勝てない』と思わせるような試合をしたい」と力を込めた。